

会員総会記念インタビュー

将来性はない

（聞き手・編集長内井高弘） 協会本部で

「タスの高い組織にしたい」
——協会に入るメリットがない、との意見もあります。

「廣川允彦会長の突然の計報とはいえ、会長不在の状態が長く続くとやはりよくない。設立の目的は温泉について調べ、（温泉の）知識を普及させること。温泉を知らず

緊要副会長会議と総務委員会の合同会議を経て、書面理事会で4月26日に就任が決まった。副会長のどなたかが、

温泉水のあらゆる情報を、会報を通じて知ることができるといのが一つのメリット

会長になると思っていただけに、突然の指名にびっくりした。青天の霹靂であり、決まっていたことではなかった。

ってから、うさぎは眠れな
かた（笑）。私は第10代
会長ながら、学術部委員と
して第5代の大島良雄さ
（1987～89年）以来と
聞いている」

どんな問題があるのか、協会
に問い合わせれば分かること
うのが二つのメリット、会
員同士が知り合い、親睦を図
る場でもあるのが三つ目のメ
リットだと認識している」

——具体的に、会員にメリ

——そうしたことはあまり知られていません。

り、そこに私が選ばれた理由がある」と理解している。いずれにしても、一般社団法人（昨年11月1日付）となり、これまでも違った協会運営が求められている」。

――基礎強化には会員増が必要ですね。

――「開発側」にして都合のいい情報ばかりが流れていくという。個人の地に地熱発電に将来性はないと考えるか、それでも開発するならば、由明文として盛り込んだ5項目を守っているだけだ。協会としては反

「無秩序な地熱資源開発は反

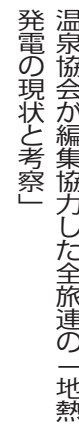
『無秩序な地熱発電開発は反

「3月未現在の会費数は14388だ。廃業、破産、経費節約などを理由に退会している。一方で、入会は10年が9、11年が33、そして昨年は46あり、少しずつ増えてきている。トータルでは減少傾向だが、その割合は小さくなっていく」

「**電力の自由化と自然エネルギーに関する政策報告書**
— 地熱発電の現状と考察 —」

平成28年3月発行

る。数が多ければそれに越したことはないが、大切なのは小粒でもピリリと辛いこと。質を重視し、信頼され、ステ



業として、『地熱発電の

業として、『地熱発電の

現状と考察」と題する冊子を作ったが、この編集協力を、行った。作業を進める中で、地熱対策特別委員会の中に旅連地熱報告書作成ワキンググループを設置し対応した。冊子は3月末までにできた。

温泉排水問題について——現在の暫定排水基準値は6月までの適用となっているが。

「引き続き5年間を期限に、現行基準が適用されることとなった。つまり、16年6月末まで現行通り」とのことだ。しかし、ホウ素やナッ素はそもそも温泉の中に存在するものも、自然界にあるものをどうして規制できるか、そこがわからず、理解できない(笑い)。現状、ホウ素・ナッ素による健康被害が起きている

のだからか。起きているなら規制も仕方ないと思うのだよ。それはともかく、低コストな処理技術が早く確立されることが期待している」

天然温泉表示制度は協会会ならではの事業ですが、看板の普及状況は、

「今年3月末現在の有効発行人状況は234施設、449枚となっている。全国統一の基準と第三者機関による公正な審査という信頼性が高く、もって普及すると思っておりますが、足踏み状態にある。温泉旅館のセールズポイントになると思うのだが。会報やHPを通じて、PRも普及に努めていくことが必要」と

「学術部の活用も必要」と進みますか。

「6つの専門部会。温泉地

学、温泉化学・温泉物理学、温泉医学、温泉工芸、温泉計測学、温泉法学、温泉観光学・温泉経営学を設け、活動しているが、もっと活発化して、知識の普及に努めたい。会員の方々の役に立つような情報を提供してこい」

今年度はどんな事業展開を。

「重点目標は、①新法人移行後の協会のあり方、事業の再見直し、財政再建の緊急対策の動向について的情報収集と対応③HPの改善により宿泊予約サイトとの連携事業の推進の3点だ。また、9月をめぐって事務所を千代田区平河町にある全国旅館会館に移転する」

「温泉は日本が世界に誇れる観光資源であり、温泉を

的に日本を訪れる外国人も多い。政府が進める観光立国政策により、地熱発電の地熱発電所、重点を置いて、全、矛盾している。将来的には、温泉水を世界遺産にしたい。パラス（イギリス）など世界遺産も誕生している。世界遺産の温泉水大園日本が世界遺産となつて然るべきだ」

——最後に抱負を改めてお聞きしたい。

「国家的事業として進められていく地熱発電に対し、日本、本、の伝統文化であり、年間、億、千万人が楽しんでいる温泉、泉をいかに守るかという問題、と、84年の伝統を誇る温泉、泉の組織の充実にも全力で取り組む」

2013年版完成 **好評**

だが、温泉協会ならではの宿泊予約サイト数は多い。宿泊予約サイト数は多いのに、温泉協会ならではの宿泊予約サイトでは、

特色をどう打ち出していくのか、知恵を絞りたい」

「地熱発電問題をきっかけに、県温泉協会連絡会議」ができました。

「県温泉協会間の横の連絡と情報の共有、意見交換などの必要を感じ、1年11月に初めて開催した。昨年10月に第3回の会合を昨年、このときは地熱と温泉排水、二つの折を見て開く方針で、この秋

には4回目を開きたい。全国には14の県県農協がある。本当は都道府県農協すべてに協会ができるのが望ましいが、なかなか難しい。」

——地熱発電は再生可能エネルギーギーといわれますが、果たしてそうでしょうか。

「地熱は太陽や風と同様に再生可能エネルギーの資源といわれても、太陽は照射する、風は吹いてくるエネルギーギーだけを使用するので永続

性があり、まさに自然の再生エネルギーだ。対して、地熱発電は掘削井によって地下3千メートルの化石熱エネルギーを取り出すので、開発行為そのものだ。温泉のように日本列島の地下に定常的に供給される熱エネルギーを利用するならば重大な問題にならないだろうが、その数倍に相当する熱エネルギーを取り出すとなると、温泉に影響を及ぼすこととは容易にあり得るし、水蒸

地層に戻す還元井から地下に
廃棄することになるが、その
際に温泉沈殿物の除去対策と
して硫酸などを多量に添加さ
るため、土壌汚染や地下水汚
染が危惧される。また、地下
廃棄は人為的に高い圧力で還
元井から地層の割れ目などに
戻すため、地下3千メートル
までの地下環境が破壊、工堀
化されるのみならず、地滑り
や地震などの発生も皆無とは
いえない」

おおやま・まさお 文学博士。工学院大学院修士課程機械工学専攻卒。神奈川県温泉地学研究所などを経て、現在は昭和女子大非常勤講師、早稲田大オプンカレッジ講師などを務める。06〜10年には日本温泉科学会会長を務め、11年から日本温泉協会学術部幹事委員。13年4月会長就任。69歳。

「地熱は限りある資源である以上、枯渇という問題も懸念される。枯渇する、また新たな場所を掘る、そして絶えず新たな掘削が繰り返される」と、周辺の地形の改変や、環境破壊、温泉水への影響も懸念される。

「声明文も書いているが、発電後の蒸気や熱水は、高濃度の硫化水素やヒ素を含む、いわゆる産業廃棄物である、河川などには排水できない。おのずから再び

会長

大山 正雄氏

宿泊予約機能を強化

温泉を世界遺産に

宿を知り尽くした
「旅のプロたち」の評価です。

観光経済新聞社が主催する「人気温泉旅館ホテル250選」で、通算5回以上入選した施設に贈られる称号です。日本の旅館・ホテルの「5つ星認定」は業界初／2012年度は221軒の宿が認定を受けました。

「人気温泉旅館ホテル250選」は、全国主要旅行会社社員による温泉宿人気投票です。「施設」「料理」「サービス」「雰囲気」などの観点で、プロの視点「からお要めの宿を」「1人5軒まで投票してもらい、上位250軒を毎年公表します。観光業界のみならず、各界からも大きな注目を浴びています。

各界からも大きな注目を浴びています。

2013年版完成

**好評
発売中!!**



5つ星の宿

5-Stars Onsen Ryokan

Recommended by Travel Professionals

2003-2012

「5つ星の宿」は、観光経済新聞社の登録商標です。

A4 変形判・164 ページ、オールカラー 定価 1,500 円 (税込 / 送料 340 円) ※一般書店では取扱っておりません。直接下記までお申し込みください。

お申し込み・お問い合わせは・・・観光経済新聞社 出版部 TEL.03-3827-9800 FAX.03-3827-9730 E-mail:info@kankokeizai.com